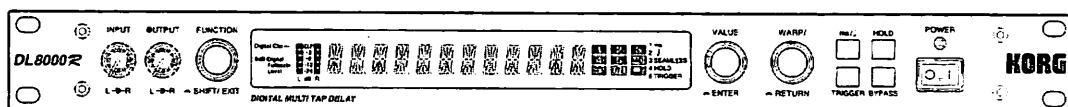


DL8000R

DIGITAL MULTI TAP DELAY

取扱説明書



目次

各部の名称とはたらき	4	タイム・モードとテンポ・モード	11
フロントパネル	4	モード切り替え時のパラメータの値	11
リアパネル	5	タップテンポとオーディオ・トリガー	12
DL8000Rの操作方法	6	タップテンポ・ディレイ	12
基本的な操作方法	6	オーディオ・トリガー・ディレイ	12
エディットの方法	7	ノート・レゾリューションについて	12
メイン・パラメータとサブ・パラメータ	7	リズム機能について	12
リネームの方法	7	付 録	13
ライトの方法	8	パラメータ解説	13
プログラムのライト	8	PROGRAM EDITモード	13
ユーティリティ・パラメータのライト	8	UTILITYモード	14
コンペア機能	8	メッセージについて	16
リアルタイム・コントロール	9	故障かな?と思ったら	16
[WARP!]ノブによるコントロール	9	仕様	17
フットペダル/MIDIメッセージによるコントロール ..	10	MIDIインプリメンテーション・チャート	18
LFOによるコントロール	10		
エンベロープによるコントロール	11		

KORG

安全上のご注意

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

以下の指示を守ってください

⚠ 警告



- 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。
- 付属のAC/ACパワーサプライは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んで使用してください。
- 次のような場合には直ちに電源を切り、AC/ACパワーサプライをコンセントから抜きます。そして、コルグ営業所またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
 - AC/ACパワーサプライの電源コードやプラグが破損したとき
 - 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
 - 製品が(雨などで)濡れたとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき



- 次のような場所での使用や保存はしないでください。
 - 温度が極端に高い場所(直射日光のあたる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
 - 水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
 - ホコリの多い場所



- 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。
- AC/ACパワーサプライのコードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。コードに傷がつき危険です。
- 本製品をヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程度の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれないでください。



- 本製品およびAC/ACパワーサプライを分解したり、改造したりしないでください。

⚠ 注意



- 本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。
- 本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このため他の電気機器を接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆に他の電気機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。
- AC/ACパワーサプライをご使用になる場合は、必ず指定のものをご使用ください。他のパワーサプライやアダプターをご使用になりますと故障の原因となります。また、使用後はAC/ACパワーサプライをコンセントから抜いてください。

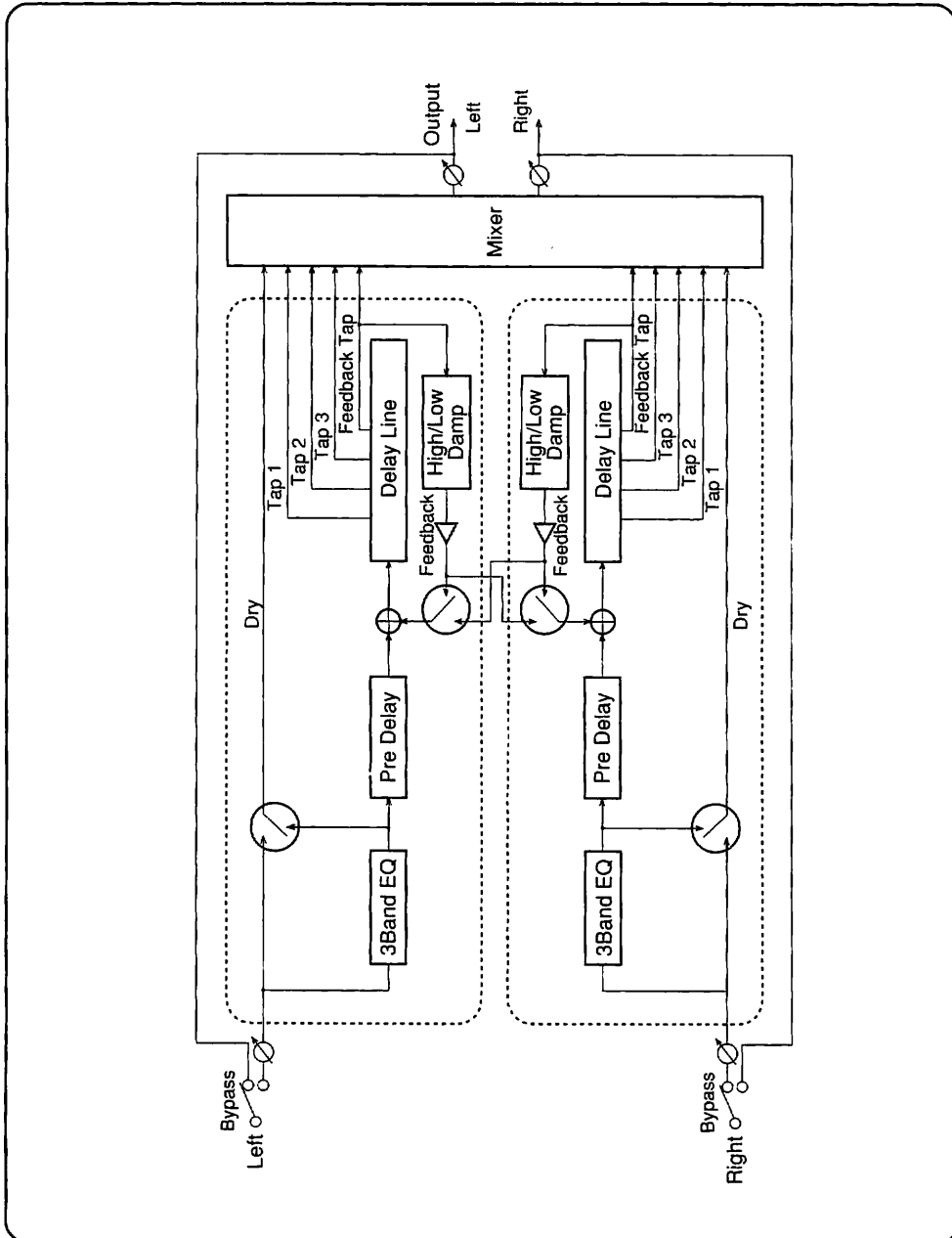


- スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。
- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。
- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効となります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。
- 今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。



- AC/ACパワーサプライをコンセントから抜くときは、絶対にコードを引っばらないでください。故障の原因となります。

このたびは、コルグDL8000Rデジタル・マルチタップ・ディレイをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品を末永くご愛用していただくためにも、この取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保存してください。



各部の名称とはたらき

フロントパネル

[FUNCTION]ノブ

ノブを回すと、モードの選択やプログラム・エディット・パラメータ、ユーティリティ・パラメータが選択できます。
ノブを押すと、サブ・パラメータをもつパラメータを選択しているときは、サブ・パラメータが表示できます。メイン・パラメータとサブ・パラメータの階層を移動するとき、このノブを押します (SHIFT/EXIT機能)。

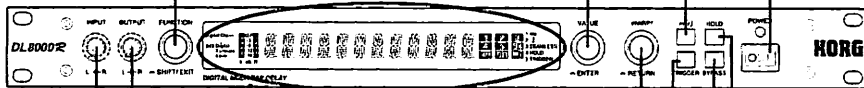
[VALUE]ノブ

ノブを回すと、プログラムを選択したり選ばれたパラメータの値を変化させることができます。
ノブを押すと、PROGRAM EDITモードやUTILITYモードのパラメータがライトできます (ENTER機能)。

[ms/♪]キー

タイム・モード (ms) とテンポ・モード (BPM) を切り換えるとき (P11)、このキーを押します。
タイム・モードにするとディスプレイの右の [1] が点灯します。
テンポ・モードにすると [2] が点灯します。

電源スイッチ
電源をON/OFFします。



[INPUT]ノブ

左右の入カレベルを調整します。

[OUTPUT]ノブ

左右の出カレベルを調整します。

[WARP]ノブ

本機の特徴である[WARP]ノブは、本機の様々なパラメータを割り当て (P9)、リアルタイムにコントロールすることができます。
ノブを回すと、どのパラメータに割り当てられているかによって効果は異なりますが、割り当てたパラメータの値を一時的に変化 (プログラム自体の変更はない) させることができます。
ノブを押すと、[WARP]ノブを回して一時的に変更させたパラメータを元の値に戻すことができます (RETURN機能)。

[HOLD]キー

このキーを押すと、ディレイ音をその時点のディレイタイムで出力し続けます (ホールド機能)。解除するときはもう一度キーを押します。機能時は、ディスプレイの右の [4] が点灯します。

[BYPASS]キー

このキーを押すと、エフェクトがかからない音が出力されます (バイパス機能)。解除するときはもう一度キーを押します。
電源のOFF時はバイパスになります。

▲ バイパス時はINPUT端子に入力された音量がそのまま出力されます。音量は接続した機器で調整してください。

[TRIGGER]キー

オーディオリガー・ディレイおよびタップテンポ・ディレイを動作させるとき、このキーを押します。
オーディオリガー・ディレイ動作時は、ディスプレイの右の [5] が点灯します。

レベルメータ

入力レベルを表示します。入力レベルが大きすぎると、CLP (クリップ) インジケータが点灯します。

[1] (ms)

タイム・モード時に点灯します。

[4] (HOLD)

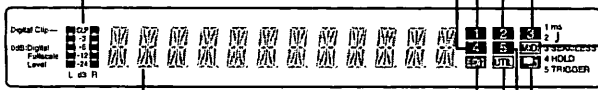
ホールド機能時に点灯します。

[2] (♪)

テンポ・モード時に点灯します。

[3] (SEAMLESS)

SEAMLESSモード時に点灯します。



ディスプレイ

プログラムや各種のパラメータ等を表示します。

[EDIT]

PROGRAM EDITモード時に点灯します。パラメータ値の変更後、ライトせずに他のモードへ移ったときは点滅します。

[UTIL] (UTILITY)

UTILITYモード時に点灯します。パラメータ値の変更後、ライトせずに他のモードへ移ったときは点滅します。

[MIDI]

MIDIメッセージの受信時に点灯します。

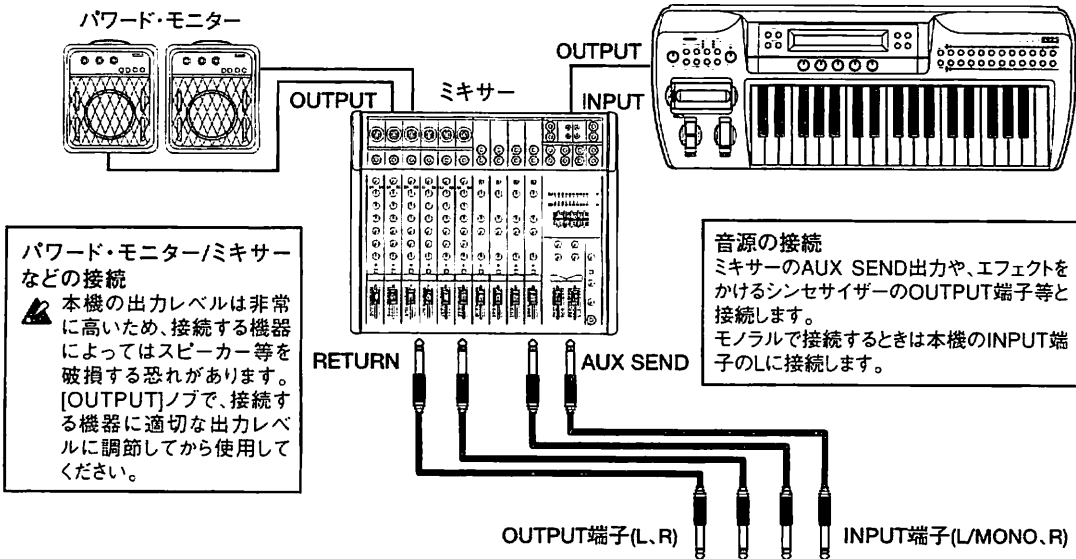
[] (SHIFT)

PROGRAM EDITモード、UTILITYモードのメイン・パラメータを表示している場合、その下の階層にサブ・パラメータが存在するとき点滅します。下の階層に入りサブ・パラメータを表示しているとき点灯します。

[5] (TRIGGER)

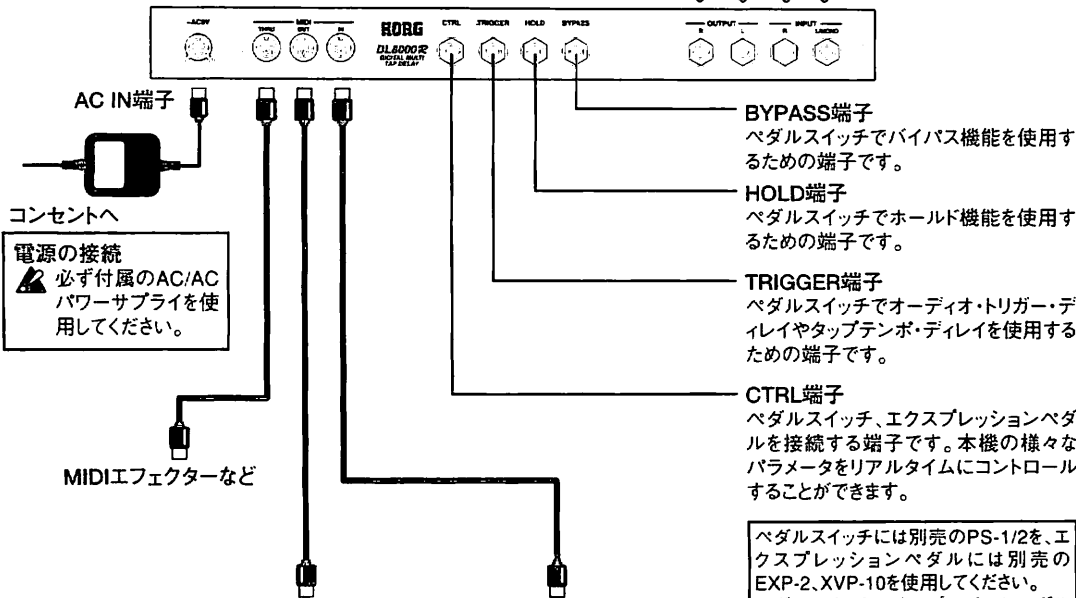
オーディオリガー・ディレイ動作時に点灯します。

リアパネル



パワー・モニター/ミキサーなどの接続
 本機の出カレベルは非常に高いため、接続する機器によってはスピーカー等を破損する恐れがあります。[OUTPUT]ノブで、接続する機器に適切な出力レベルに調節してから使用してください。

音源の接続
 ミキサーのAUX SEND出力や、エフェクトをかけるシンセサイザーのOUTPUT端子等と接続します。モノラルで接続するときには本機のINPUT端子のLに接続します。



電源の接続
 必ず付属のAC/ACパワーサプライを使用してください。

BYPASS端子
 ペダルスイッチでバイパス機能を使用するための端子です。

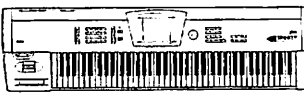
HOLD端子
 ペダルスイッチでホールド機能を使用するための端子です。

TRIGGER端子
 ペダルスイッチでオーディオ・トリガー・ディレイやタップテンポ・ディレイを使用するための端子です。

CTRL端子
 ペダルスイッチ、エクスペッションペダルを接続する端子です。本機の様々なパラメータをリアルタイムにコントロールすることができます。

MIDI OUT端子の接続
 本機のみIDI OUT端子とMIDI機器のみIDI IN端子を接続します。主に、MIDI機器でデータを保存するための接続です。コンピュータと接続するためには、コンピュータ側にMIDIインターフェイスが必要です。

コンピュータ/シーケンサ/MIDIフットコントローラ/MIDIキーボード/MIDI音源など



MIDI IN端子の接続
 本機のみIDI IN端子とMIDI機器のみIDI OUT端子を接続します。MIDI機器で本機をコントロールするための接続です。コンピュータと接続するためには、コンピュータ側にMIDIインターフェイスが必要です。

ペダルスイッチには別売のPS-1/2を、エクスペッションペダルには別売のEXP-2、XVP-10を使用してください。ペダルスイッチ、エクスペッションペダルを使用するときには、あらかじめUTILITYモードのFOOT PEDALでフットペダルのタイプを設定してください。



DL8000Rの操作方法

基本的な操作方法

① 電源を入れる

「リア・パネル」(P5)を参考にして接続をすべて終えたら、電源スイッチをONにします。PROGRAM SELECTモードへ入り、プログラムが表示されます。

▲ 本機の電源をON/OFFするときは、接続してある機器のボリュームを必ず下げてください。

② 入力レベルを設定する

接続した機器の音を入力し、[INPUT]ノブを回して適切な入力レベルに調整してください。入力レベルが大きすぎるときは、ディスプレイの左のCLPインジケータが点灯します。

▲ エフェクトの設定値によっては、入力レベルが大きくなくてもCLPインジケータが点灯することがあります。これは、デジタル処理時に内部でオーバーフローしていることを示しています。この場合は、PROGRAM EDITモードのレベル等(MIXERのサブ・パラメータ)で、内部でのレベルが下がるように調整してください。

③ 出力レベルを設定する

[OUTPUT]ノブを回し、適切な出力レベルに調整してください。

④ プログラムを選ぶ

[VALUE]ノブを回してプログラムを選択します。

*本体でプログラムを選択するときは、「DIR(ダイレクト・モード)」と「2STP(2ステップ・モード)」があります(工場出荷時は「ダイレクト」)。

ダイレクト・モードでは、PROGRAM SELECTモードで[VALUE]ノブを回してプログラムを選択します。

2ステップ・モードでは、(ダイレクト・モードと同様に) PROGRAM SELECTモードでプログラムを選択したあとで、[VALUE]ノブを1度押して確定します。

このモードを変更するときは、UTILITYモードのPROGRAMパラ

メータのサブ・パラメータの階層へ移り、PROGCHG MODEを選択し、この値を設定します。

プログラムの選択は、本体操作以外に、MIDIメッセージを受信してプログラムチェンジを行なうこともできます。

本機のプログラムは、「プリセット・プログラム・リスト」を参照してください。

*電源ON時のプログラムは、UTILITYモードのPROGRAMのサブ・パラメータであるWAKE UP PROGで選択されているプログラムです。

⑤ モードとパラメータの選び方(下の図参照)

電源をONにするとPROGRAM SELECTモードへ入ります。このモードでプログラムを選択します。

PROGRAM SELECTモードで[FUNCTION]ノブを右へ回すと、PROGRAM EDITモードへ入り、プログラム・エディットのメイン・パラメータが表示され、同時にディスプレイの右の[EDIT]が点灯します。

このモードでは、各プログラムを構成するパラメータをエディットし、オリジナルのエフェクト設定を行ないます。

PROGRAM EDITモードで、さらに[FUNCTION]ノブを右へ回していくとUTILITYモードへ入り、ユーティリティのメイン・パラメータが表示され、同時にディスプレイの右の[UTIL]が点灯します。

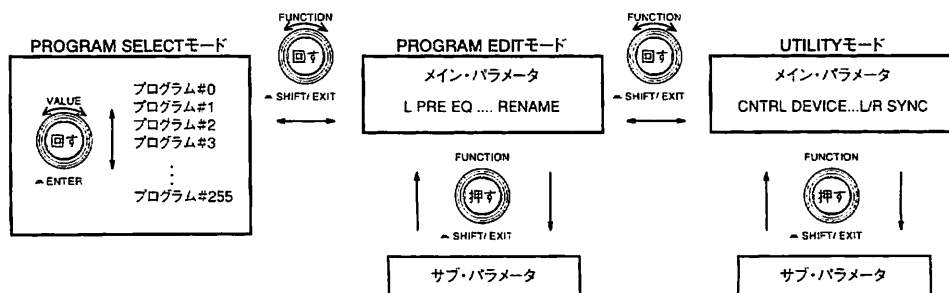
このモードでは、MIDIメッセージの送受信を含む本機の基本的な設定を行います。

メイン・パラメータが表示されているときに[**↻**]が点滅すると、メイン・パラメータの下の階層にさらに細かいサブ・パラメータが存在することを示しています。メイン・パラメータとサブ・パラメータの表示は、[FUNCTION]ノブを押して切り替えます(サブ・パラメータ表示時は[**↻**]が点灯)。

*パラメータ名は、短縮形とスクロールのどちらかで表示されます(工場出荷時は短縮形)。

これを変更するときは、UTILITYモードでDISPLAYを選択し、[FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータの階層へ移ります。

[FUNCTION]ノブを回してABBREV MODEを選択し、[VALUE]ノブで1または2を選択します。1では短縮形、2ではスクロールで表示されます。



短縮形に変化するまでの時間やスクロール時の速さは、DISPLAYのサブ・パラメータであるABBREV TIMEで調整することができます。

⑥ [WARP!]ノブの操作

工場出荷時のすべてのプログラムには、パネル上の[WARP!]ノブにパラメータが割り当てられています。音を出しながら[WARP!]ノブを回して効果を試してみてください。

⑦ パラメータのエディット(☞P7)

選んだプログラムを元にして、パラメータの値を変更し、新たなエフェクト・プログラムを作ることができます。

⑧ ライト(☞P8)

作成したエフェクト・プログラムや、変更したユーティリティ・パラメータは、[VALUE]ノブを押して、本機内にライトして保存することができます。

▲ [VALUE]ノブを2秒以上押し続けると画面にCOMPAREと表示され、コンペア(☞P8)が機能します。

▲ プログラムのライト操作を行うと、ライト先のプログラムはライト元のプログラムに書き変わりますので十分注意してください。

▲ ライト操作をせずに電源を切ったりプログラムを選択すると、変更した値はすべて無効となります。

● 工場出荷時のプログラムに戻したいとき

UTILITYモードのPRESET (MEMORYのサブ・パラメータ)を選択し、[VALUE]ノブを押して工場出荷時のプログラムをロードします。

▲ ロードすると、工場出荷時のプログラムが本体のプログラムの上に書き込まれるので、ライトの操作で本体に保存したデータを失うことになります。大切なデータは、データファイラー等へあらかじめ保存しておいてください。

エディットの方法

PROGRAM EDITモードのパラメータをエディットし、オリジナルのエフェクトを作ることができます。また、UTILITYモードのパラメータでは、本機のリアルタイム・コントロール機能の設定を中心に基本的な設定を使用する目的に合わせてエディットすることができます。

① [FUNCTION]ノブを回してパラメータを選びます。

② [VALUE]ノブを回して値を変更します。

UTILITYモードのEDIT L/R SNCをONにしてからL (Left)側またはR (Right)側のどちらか一方のパラメータをエディットすると、それに対応するもう一方のパラメータも同時にエディットすることができます。

例えば、L側とR側のフィードバックを同じ値に設定したいときは、EDIT L/R SNCをONにしてからL FBACK LEVLまたはR FBACK LEVLの値を変更します。

現在表示されている値とライトされている元の値とが異なる場合は、パラメータ名の最後のドットが点灯します。

メイン・パラメータとサブ・パラメータ

本機は、PROGRAM EDITモードとUTILITYモードのメイン・パラメータの下にサブ・パラメータが並ぶ階層構造になっています。この階層を切り替える場合は、[FUNCTION]ノブを押します。

表示しているメイン・パラメータの下にサブ・パラメータがあるときは、ディスプレイの右の[]が点滅します。サブ・パラメータが表示されているときは、[]が点灯に変わります。メイン・パラメータの中には、サブ・パラメータを表示するためだけで値を持っていないものもあります。

リネームの方法

プログラムには12文字までの名前が付けられます。

① [FUNCTION]ノブを回し、PROGRAM EDITモードのRENAMEを選択します。

② [FUNCTION]ノブを押し、サブ・パラメータの階層へ入ります。

③ [FUNCTION]ノブを回し、変更する文字を選びます。

④ [VALUE]ノブを回し、文字を選択します。

選択できる文字は、以下の65文字です。スペースを選択するとディスプレイには“ ”と表示されます。

	!	"	#	\$	%	&	'	()		
*	+	,	-	.	/	0	1	2	3		
4	5	6	7	8	9	:	;	=			
]	[^	_	~	?	@	A	B	C	D	E
F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q
R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[
\]	^	_	~	'						

ライトの方法

プログラムのライト

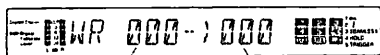
PROGRAM EDITモードのパラメータを変更して作成した大切なプログラムは、本体へライトして保存してください。パラメータ値の変更後、ライトせずに他のモードに移ったときは、ディスプレイの右の【EDIT】が点滅します。

▲ プログラムのライト操作を行うと、ライト先のプログラムはライト元のプログラムに書き変わりますので十分注意してください。

▲ UTILITYモードのWRITE PROTCT(MEMORY)のサブ・パラメータがONになっているときはライトできません。

①【VALUE】ノブを押します。

ディスプレイには、現在のプログラム・ナンバーと書き込み先のプログラム・ナンバーが表示されます。



現在のプログラム・ナンバー
書き込み先のプログラム・ナンバー

ライトを中止するときは【FUNCTION】ノブを押します。

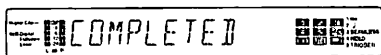
▲ 【VALUE】ノブを2秒以上押し続けると画面に“COMPARE”と表示され、コンペア機能(P8)が動作します。

②【VALUE】ノブを回して書き込み先のプログラム・ナンバーを選びます。

ここでは、0~127を選びます(128~255はROMエリアなのでライトできません)。

③【VALUE】ノブを押します。

選んだ書き込み先にプログラムが書き込まれ、書き込みが終了すると下のよう“COMPLETED”と表示されます。その後、元の表示に戻ります。



ユーティリティ・パラメータのライト

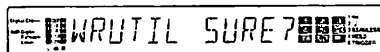
UTILITYモードのパラメータを変更した場合、その設定を本体へ保存しておきたいときはライトしてください。パラメータ値の変更後、ライトせずに他のモードに移ったときは、ディスプレイの右の【UTIL】が点滅します。

PROGRAM EDITモードのライトと異なり、ライト先の指定やコンペア機能、ライトプロテクト機能はありません。

▲ ライト操作を行わないで電源を切ると、変更した内容はすべて無効となります。

①【VALUE】ノブを押します。

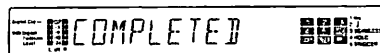
ディスプレイには、下のように表示されます。



ライトを中止するときは【FUNCTION】ノブを押します。

②【VALUE】ノブを押します。

書き込みが終了すると“COMPLETED”と表示されます。その後、元の表示に戻ります。

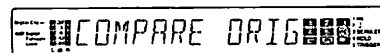


コンペア機能

PROGRAM EDITモードでパラメータをエディットするとき、この機能を使うと、エディット前のパラメータの設定と、現在エディット中のパラメータの設定とを聞きくらべることができます。

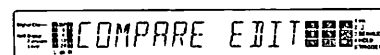
①【VALUE】ノブを2秒以上押し続けます。

コンペアが機能し、ディスプレイの表示は下のようになります。



この状態のときは、エディット前のパラメータの設定でエフェクトがかかります。

②【VALUE】ノブを押すとエディット中のエフェクトが使用でき、ディスプレイの表示は下のようになります。




③もう一度【VALUE】ノブを押すとエディット前のエフェクトが使用でき、ディスプレイには①と同様に“COMPARE ORIG”と表示されます。

このように【VALUE】ノブを押すたびに、エディット前と後のパラメータの設定を切り替えることができます。コンペア機能から抜けるときは、【FUNCTION】ノブを押します。

リアルタイム・コントロール

本機では、[WARP!]ノブ、CTRL端子に接続したフットペダル、MIDIメッセージ、LFO、入力信号のエンベロープ、等のコントローラにパラメータを割り当て、その値を変化させることができます。演奏中にコントローラを操作すると、パラメータの設定が変化してフレーズに表情を付けることができます。

-  次に説明する各手順で、UTILITYモード、PROGRAM EDITモードの設定を保存しておきたいときは、各モードの設定後に必ずライト操作(☞P8)を行ってください。

[WARP!]ノブによるコントロール


工場出荷時のすべてのプログラムには、[WARP!]ノブにパラメータが割り当てられています。[WARP!]ノブで効果を試してみてください。

本機では、パネル上の[WARP!]ノブにパラメータを割り当てることができます。

例えば、PROGRAM EDITモードのL FBACK LEVEL (フィードバックの量を設定するパラメータ)を、[WARP!]ノブを2周回したときに現在のパラメータ値から-6まで変化させたいときは、以下のように設定します。

<UTILITYモードの設定>

- ① [FUNCTION]ノブを回し、UTILITYモードのCNTRL DEVICEを選択します。

ディスプレイの右の【UTIL】が点灯して現在UTILITYモードにいることを示し、同時に【】が点滅してそのパラメータにサブパラメータが存在することを示します。

- ② [FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータの階層へ入ります。

- a [FUNCTION]ノブを回し、CONTROLLER1~8のうちの1つを選択します。

ここでは、CONTROLLER1を選択しましょう。


- b [VALUE]ノブを回してWARP!を選択します。

ここで、ペダルやMIDIコントロールチェンジなどのコントローラを選択すると、それらを使ってフィードバックの量を変化させることができます。

- ③ [FUNCTION]ノブを押してメイン・パラメータの階層へ戻ります。

<PROGRAM EDITモードの設定>

- ④ [FUNCTION]ノブを左へ回し、PROGRAM EDITモードのEXPRESSION1~8のうちの1つを選択します。

ディスプレイの右の【EDIT】が点灯し、【】が点滅します。

ここでは、EXPRESSION1を選択しましょう。

- ⑤ [VALUE]ノブを回してONにします。

- ⑥ [FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータの階層へ入ります。

- a [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してEXP1 SOURCEを選択します。

- b [VALUE]ノブを回して②aで選択したコントロール・デバイスを設定します。

ここでは、CR1を選択しましょう。

- c [FUNCTION]ノブを左へ1クリック回してEXP1 TARGETを選択し、[VALUE]ノブを回してコントロールするパラメータを選びます。

ここでは、L FBACKを選択しましょう。

- d [FUNCTION]ノブを右へ2クリック回してEXP1 RANGEを選択し、[VALUE]ノブを回して-6に設定します。

- e [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してEXP1 POLARTYを選択し、[VALUE]ノブを回して+に設定します。

+にすると、右方向に回したとき⑥dの設定に近づきます。

-にすると、左方向に回したとき⑥dの設定に近づきます。

- ⑦ [FUNCTION]ノブを押してメイン・パラメータの階層へ戻ります。

- ⑧ [FUNCTION]ノブを右へ回してWARP! RESULTを選択し、[VALUE]ノブを回して2を設定します。

WARP! RESULTでは、[WARP!]ノブを何周回すと⑥dで設定したレンジに到達するかという感度を設定します。

2を設定すると、ターゲット・パラメータ(ここではL FBLVL)の値が、2周する間に現在のパラメータ値からレンジの値(-6)に変化します。

<[WARP!]ノブの操作>

以上のように設定すると、[WARP!]ノブで次の操作ができます。

- [WARP!]ノブを右へ回すと徐々にフィードバックが大きくなっていき、[WARP!]ノブを右へ2周回すとRANGE1の設定値(-6)になります。左へ回すと徐々にフィードバックが小さくなります。パラメータはWARP! RESLTで設定した周回(2周)の間で変化します。EXP1 POLARTYの設定が+なら右方向へ回すとEXP1 RANGEの値まで変化し、左方向へ回すともとの値まで変化します。
- 変化後に[WARP!]ノブを押すと、[WARP!]ノブを回す前の状態に戻すことができます。

フットペダル / MIDIメッセージによるコントロール

本機では、CTRL端子に接続したフットペダルを操作して、またはMIDIコントロールチェンジ、MIDIベロシティ等のMIDIメッセージを受信して、割り当てたパラメータをコントロールすることができます。

例えば、L TAP1 LEVELのパラメータを、MIDIコントロールチェンジ1の受信で現在のパラメータ値から0dBまで変化させたいときは、以下のように設定します。

<UTILITYモードの設定>

- ①「[WARP!]ノブによるコントロール」の手順①～③を設定します。そのうち、②bではCC001を選択します。

CTRL端子に接続したフットペダルでパラメータをコントロールするときは、②bでPEDALを選択します。

<PROGRAM EDITモードの設定>

- ②[FUNCTION]ノブを左へ回してPROGRAM EDITモードのEXPRESSION1～8の1つを選択します。

ここでは、EXPRESSION1を選択しましょう。

- ③[VALUE]ノブを回してONにします。
- ④[FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータの階層へ入ります。
 - a [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してEXP1 SOURCEを選択し、[VALUE]ノブを回して①で選択したコントロール・デバイスを設定します。
ここでは、CR1を選択しましょう。

- b [FUNCTION]ノブを左へ1クリック回してEXP1 TARGETを選択し、[VALUE]ノブを回して変化させるパラメータを選択します。
ここでは、L1 LVLを選択しましょう。
- c [FUNCTION]ノブを右へ2クリック回してEXP1 RANGEを選択し、[VALUE]ノブを回して0dBに設定します。
- d [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してEXP1 POLARTYを選択し、[VALUE]ノブを回して変化の方向を設定します。
+にすると、受信したMIDIコントロール・チェンジのデータバイトが0のとき現在のパラメータ値になり、MIDIコントロール・チェンジが増加する方向に変化したとき④cの設定に近づきます。
-にすると、受信したMIDIコントロール・チェンジのデータバイトが127(=7F)のとき現在のパラメータ値になり、MIDIコントロール・チェンジが減少する方向に変化したとき④cの設定に近づきます。

LFOによるコントロール

本機では、LFOでパラメータをコントロールできます。
例えば、L FBTAP TIMEのパラメータを、LFOでモジュレーションをかけるときは、以下のように設定します。

<PROGRAM EDITモードの設定>

- ①[FUNCTION]ノブを左へ回してPROGRAM EDITモードのLFOを選択し、[VALUE]ノブを回してONにします。
- ②[FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータの階層へ入ります。
 - a LFO SPEEDで[VALUE]ノブを回してLFOのスピードを調整します。
- ③[FUNCTION]ノブを押してメイン・パラメータの階層へ戻り、[FUNCTION]ノブを左へ回してL FBTAP TIMEを選択します。
- ④[FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータへ入ります。
 - a L FBTAP MODで[VALUE]ノブを回してONにします。

- b [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してLFB MOD SRCを選択し、[VALUE]ノブを回してLFOに設定します。
- c [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してLFB MOD DPTHを選択し、[VALUE]ノブを回して変調の深さを設定します。
メイン・パラメータのR FBTAP TIMEでも同様の設定をし、LFOのサブ・パラメータのLFO PHASEで左右のLFOの位相をずらすと、モジュレーションに広がりをもたせることができます。

エンベロープによるコントロール

本機では、入力信号のエンベロープでパラメータをコントロールできます。

例えば、メイン・パラメータのL FBTAP TIMEをエンベロープでコントロールするときは、以下のように設定します。

<UTILITYモードの設定>

- ① [FUNCTION]ノブを右へ回してUTILITYモードのAUDIO CNTRLを選択し、[FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータの階層へ入ります。
 - a ENVELOP SENSで[VALUE]ノブを回してエンベロープの感度を調整します。
 - b [FUNCTION]ノブを右へ回してENVLP RELEASEを選択し、[VALUE]ノブを回してエンベロープのリリースタイムを調整します。
- ② [FUNCTION]ノブを押してメイン・パラメータの階層へ戻ります。

<PROGRAM EDITモードの設定>

- ③ [FUNCTION]ノブを左へ回してL FBTAP TIMEを選択し、[FUNCTION]ノブを押してサブ・パラメータの階層へ入ります。
 - a L FBTAP MODで[VALUE]ノブを回してONにします。
 - b [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してLFB MOD SRCを選択し、[VALUE]ノブを回してENVに設定します。
 - c [FUNCTION]ノブを右へ1クリック回してLFB MOD DPTHを選択し、[VALUE]ノブを回して変調の深さを設定します。

タイム・モードとテンポ・モード

タイム・モードとテンポ・モードは、フロントパネルの[ms/.]キーを押すことによって簡単に切り替えることができます。タイム・モード時はディスプレイ右の【1】が点灯し、テンポ・モード時はディスプレイ右の【2】が点灯します。

タイム・モードでは、フィードバック・タップのディレイタイムやタップ1～3のディレイタイムをms単位で設定できるので、複雑なタップテンポ・ディレイを作り出すことができます。また、[TRIGGER]キー等でリアルタイムにタイムを設定すると、フィードバック・タップのディレイタイムのみ設定されます(タップ1～3のディレイタイムは設定されません)。

テンポ・モードでは、TEMPOとL RHYTHM PAT (R RHYTHM PAT)のパラメータ値を選択すると、フィードバック・タップのディレイタイム、タップ1～3のディレイタイムとレベルが自動的に生成されるので、感覚的にタップテンポ・ディレイを作り出すことができます。また、[TRIGGER]キー等でリアルタイムにテンポを設定すると、そのときのリズムパターンの設定で、フィードバック・タップのディレイタイム、タップ1～3のディレイタイムとレベルが設定されます。

モード切り替え時のパラメータの値

モードが切り替わると、パラメータの値もモードに合わせて変換されます。ただし、エディットせずに元のモードへ戻ったときは、パラメータ値は元の状態に戻ります。

<タイム・モード→テンポ・モード>

タイム・モードで設定したL FBTAP TIMEがTEMPOに変換されます。L RHYTHM PAT、R RHYTHM PATは以前にテンポ・モードで設定したリズムパターンが表示されますが、タイム・モードで設定した値からは変換されません。L RHYTHM PAT、R RHYTHM PATの設定を有効にするにはそれらを再設定してください。L RHYTHM PAT、R RHYTHM PATを設定する前にTEMPOを変更すると、各タップのディレイタイムはL RHYTHM PAT、R RHYTHM PATに従って変更されますが、このとき各タップのレベルは変更されません。

<テンポ・モード→タイム・モード>

テンポ・モード時にリズムパラメータによって自動的に設定された各タップのディレイタイムとレベルは、以下のパラメータで調整することができます。

ディレイタイム: L TAP1 TIME～L TAP 3 TIME、R TAP1 TIME～R TAP 3 TIME、L FBTAP TIME、R

FBTAP TIME(以上メイン・パラメータ)

レベル: L TAP1 LEVEL~L TAP3 LEVEL、R TAP1 LEVEL~R TAP3 LEVEL、L FBTAP LEVEL、R FBTAP LEVEL(以上MIXERのサブ・パラメータ)

タップテンポとオーディオ・トリガー

本機では、[TRIGGER]キーまたはフットペダルを使用してディレイタイムをリアルタイムに設定することができます。その方法にはタップテンポディレイとオーディオ・トリガー・ディレイの2通りあります。

フットペダルを使用するときは、あらかじめフットペダルをTRIGGER端子に接続し、UTILITYモードのFOOT PEDALでフットペダルのタイプを設定してください。

タップテンポ・ディレイ

[TRIGGER]キー(またはフットペダル)を数回押したときの最後の2回の間隔をR-TAPパラメータに設定された音符としてテンポを決定します。そのテンポを基準とし、FACTORパラメータの値によって、フィードバックタップのディレイタイム(テンポ・モード時はリズムパターンの1周期の長さ)が自動的に生成されます。

[TRIGGER]キー(またはフットペダル)を数回短く押すと、タップテンポ・ディレイの設定になります。

オーディオ・トリガー・ディレイ

入力信号からスレッシュホールドを超えたものをトリガーとして検出して、トリガーからトリガーまでの間隔をR-AUDパラメータに設定された音符としてテンポを決定します。そのテンポを基準とし、FACTORパラメータの値によって、フィードバックタップのディレイタイム(テンポ・モード時はリズムパターンの1周期の長さ)が自動的に生成されます。

スレッシュホールドはUTILITYモードのTRIGGER THR(AUDIO CNTRLのサブ・パラメータ)で調整します。

[TRIGGER]キー(またはフットペダル)を1秒以上押し続けると、オーディオ・トリガー・ディレイの設定になります。

ノート・レゾリューションについて

ディレイタイムは、テンポとFACTORの設定で決定されます。本機では入力されたタイミングを何音符として扱うかをRESLT TAP、RESLT AUDIO、RESLT MIDIの各パラメータで設定できます。

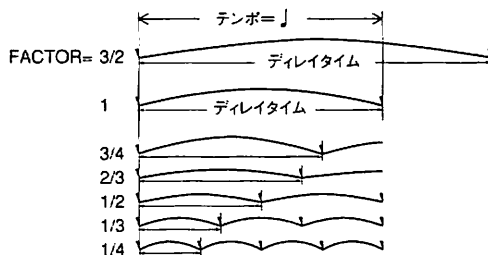
テンポの入力方法には、PROGRAM EDITモードのTEMPOの設定(テンポ・モード時)、タップテンポやオー

ディオ・トリガーのテンポ入力、MIDIクロックの受信があります。

本機では、入力したテンポを基準にしたとき、ディレイタイムをどの音符の長さに相当させたいかをFACTORで設定し、ディレイタイムを生成します。

例えば、ディレイタイムをテンポと同じ長さにしたいときは、FACTORを1にします。

FACTORの設定とディレイタイム



リズム機能について

リズム機能は、テンポとFACTORパラメータで設定されたディレイタイムを1周期として、各タップのディレイタイムとレベルを調整し、片チャンネル最大4ノートのリズムシーケンスを自動生成する機能です。

① [ms/♪]キーを押して、テンポ・モードにします。
テンポ・モードでは、ディスプレイの右の[2]が点灯します。

② [FUNCTION]ノブを回してPROGRAM EDITモードのL RHYTHM PATまたはR RHYTHM PATを選択します。

ここでは、L RHYTHM PATを選択します。

③ [VALUE]ノブを回してリズムのパターンを選択します。

リズムパターンは、1周期=♪となるように音符で表現されています。実際には、そのテンポの四分音符の長さにFACTORの値をかけた長さがそのパターンの1周期の長さとなります。

パターンは、1~3とFBの4タップで構成されています。

パターンの選択後にタイム・モードに移って、L TAP1 TIME~L TAP3 TIME、L FBTAP TIMEパラメータで各タップのディレイタイムを調整し、MIXERパラメータでレベル、パンの設定値を調整すると、微妙なノリを表現することができます。

付録

パラメータ解説

PROGRAM EDITモード

LEFT PRE EQ* (L PRE EQ) [OFF, ON]

ディレイライン前段にあるEQを使用するときはONにします。

L LOW GAIN* (L LOW G) [-15...+15dB]
低域イコライザのゲインを調整します。L LOW FREQ* (L LOW F) [31.5Hz...1KHz]
低域イコライザのカットオフ周波数を調整します。L MID GAIN* (L MID G) [-15...+15dB]
中域イコライザのゲインを調整します。L MID FREQ* (L MID F) [80Hz...8KHz]
中域イコライザのピークの周波数を調整します。L MID Q* (L MID Q) [0.3...10]
中域イコライザの帯域幅を調整します。L HIGH GAIN* (L HI G) [-15...+15dB]
高域イコライザのゲインを調整します。L HIGH FREQ* (L HI F) [1...16KHz]
高域イコライザのカットオフ周波数を調整します。L EQ LEVEL* (L LVL) [-INF...6dB]
EQによって増幅または減衰したレベルの補正をします。

L PRE DELAY* (L PREDLY) [0...400ms]

初期ディレイタイムをms単位で設定します。

L TAP1...3 TIME* (L1...3 TIME) [0.1...4800ms]

タイム・モード時に表示されます。
タップのディレイタイムをms単位で調整します。L TAP1...3 MOD* (L1...3 MOD) [OFF, ON]
ディレイタイムを変調させるときはONにします。L1...3 MOD SOURC* (L1...3 SRC) [LFO, ENV, CR1...8]
LFO、エンベロープ、コントローラ1~8から、変調させるソースを選択します。L1...3 MOD DEPTH* (L1...3 DPTH) [0...99]
L1~3 SRCでLFO、ENVを選択したときは、モジュレーションの深さを調整します。L1...3 TRGT TIME* (L1...3 TRGT) [0.1...4800ms]
L1~3 SRCでCR1~8を選択したときは、コントローラが最大値のときのディレイタイムを設定します。L1...3 MOD PLRTY* (L1...3 MPLRTY) [+ , -]
L1~3 SRCでCR1~8を選択したときは、コントローラの動作方向を設定します。

LFBTAP TIME* (LFBTIME) [0.1...4800ms]

タイム・モード時に表示されます。
フィードバック・タップのディレイタイムをms単位で設定します。LFBTAP MOD* (LFB MOD) [OFF, ON]
各コントローラでディレイタイムを変調させるときはONにします。LFB MOD SRC* (LFB SRC) [LFO, ENV, CR1...8]
LFO、エンベロープ、コントローラ1~8から、変調させるソースを選択します。LFB MOD DPTH* (LFB DPTH) [0...99]
LFB SRCでLFO、ENVを選択したときに表示され、モジュレーションの深さを調整します。LFB TRGT TIM* (LFBTRGT) [0.1...4800ms]
LFB SRCでCR1~8を選択したときに表示され、コントローラが最大値のときのディレイタイムを設定します。LFB M PLRTY* (LFB MPLRTY) [+ , -]
LFB SRCでCR1~8を選択したときに表示され、コントローラの動作方向を設定します。

TEMPO (TEMPO) [♩= 50...208]

テンポ・モード時に表示されます。
左右のフィードバック・タップのディレイタイムをBPM単位で設定します。
左右の各タップは、L PTRN(またはR PTRN)パラメータを設定すると、ディレイタイムが自動的に設定されます。
ここで設定された各ディレイタイムは、タイム・モードに変更しても引き継がれます。FACTOR (FACTOR) [×1/4...×4]
テンポに対するディレイタイムの長さを設定します。TEMPO MOD (T MOD) [OFF, ON]
テンポを変調させるときはONにします。T MOD SOURCE (T SRC) [LFO, ENV, CR1...8]
LFO、エンベロープ、コントローラ1~8から、変調させるソースを選択します。T MOD DEPTH (T DEPTH) [0...99]
T SRCでLFOまたはENVを選択したときは、モジュレーションの深さを調整します。T MOD RANGE (T RANGE) [50...208]
T SRCでCR1~8を選択したときは、コントローラが最大値のときのテンポを設定します。T MOD PLRTY (T MODPLRTY) [+ , -]
T SRCでCR1~8を選択したときは、コントローラの動作方向を設定します。

L RHYTHM PAT* (L PTRN) [♩ ... ♪♪♩♩]

テンポ・モード時に表示されます。
リズムを選択します(各タップのディレイタイムとレベルが自動的に設定されます)。

L FBCK LEVL* (L FBCK) [-INF...0dB]

フィードバックの歪を設定します。

L FBCK PLTY* (L FB PLRTY) [+ , -]
フィードバックの位相を設定します。

L LOW DAMP* (L L-DMP) [THRU, 31.5Hz...1KHz]

フィードバックのために、減衰する低域の周波数を設定します。

L HIGH DAMP* (L H-DMP) [THRU, 16...1KHz]

フィードバックのために、減衰する高域の周波数を設定します。

LFO (LFO) [OFF, ON]

LFOを使用するときはONにします。

LFO SPEED (LFO SPD) [0.01...16Hz]
LFOのスピードを調整します。LFO PHASE (LFO PHAS) [0...180deg]
LFOの左右の位相差を調整します。LFO TYPE (LFO TYPE) [SIN, TRI, EXP, LOG, RND]
波形の種類を設定します。LFO TRIGGER (LFO TRIG) [OFF, ON]
入力信号に同期してLFOを発振させるときはONにします。LFO TRIG THR (TRIG THR) [-36...0dB]
LFOを発振するためのトリガーを動作させるスレッシュホールドを調整します。

FB TYPE (FB TYPE)	[NORM, CROS]
NORMにすると、各ディレイライン内でフィードバックします。 CROSにすると、ディレイラインを交差してフィードバックします。	
L DLY INPUT* (L DLY IN)	[ON, OFF]
ディレイラインの入力スイッチです。 ONにすると信号がディレイラインに入力されます。 OFFにすると入力されません。	
MIXER (MIXER)	
各タップのレベルや定位、ダイレクト音のレベルや定位等を総合的に設定します。	
DELAY LEVEL (DLY LVL)	[-INF...0dB]
ディレイ音の出力レベルを調整します。	
DLY L/R BAL (DLY BAL)	[L20...C0...R20]
ディレイ音の左右の出力バランスを調整します。	
L TAP1...3 LEVEL* (L1...3 LVL)	[-INF...0dB]
各タップの音量バランスを調整します。	
L TAP1...3 PAN* (L1...3 PAN)	[L20...C0...R20]
各タップの定位を調整します。	
L1...3 POLARITY* (L1...3 PLRITY)	[+, -]
各タップの位相を調整します。	
L FBTAP LEVL* (LFB LVL)	[-INF...0dB]
フィードバック・タップの音量バランスを調整します。	
L FBTAP PAN* (LFB PAN)	[L20...C0...R20]
フィードバック・タップの定位を調整します。	
LFB POLARITY* (LFB PLRITY)	[+, -]
フィードバック・タップの位相を調整します。	
DIRECT (DIR)	[PRE_EQ, POST_EQ]
PRE_EQすると、入力音がダイレクトに出力されます。 POST_EQにすると、入力音をEQで処理された音が出力されます。	
DIRECT LEVEL (DIR LVL)	[-INF...0dB]
ダイレクト音の出力レベルを調整します。	
DIR L/R BAL (DIR BAL)	[L20...C0...R20]
ダイレクト音の左右の出力バランスを調整します。	
NOTE RESLT (NOTE RESLT)	
テンポでディレイタイムを決定する際の分解能を設定します。 この設定でディレイタイムがどの位の長さになるかは、「ノートレゾリューションについて」(P12)を参照してください。	
FACTOR (FACTOR)	[X1/4...X4]
テンポに対するディレイタイムの長さを設定します。	
RESLT TAP (R-TAP)	[♪...]
タップテンポでディレイタイムを設定するときの音符の分解能を設定します。	
RESLT AUDIO (R-AUD)	[♪...]
オーディオ・トリガーでディレイタイムを設定するときの音符の分解能を設定します。	
RESLT MIDI (R-MIDI)	[♪...], OFF]
MIDIから入力されるクロックでディレイタイムを設定するときの音符の分解能を設定します。	
EXPRESSION 1...8 (EXP1...8)	[OFF, ON]
ONにすると、LFOやエンベロープ、コントローラなどによって、パラメータをリアルタイムで操作できます。	
EXP1...8 TARGET (TG1...8)	[L FBACK...DIR LVL]
EXP1~8でコントロールされるパラメータを割り当てます。 SRC1~8の設定によってはここで選べないパラメータがあります。	
EXP1...8 SOURCE (SRC1...8)	[LFO, ENV, CR1...8]
LFO、エンベロープ、コントローラ1~8から、コントロールするソースを選択します。 TG1~8の設定によってはここで選べないソースがあります。	

EXP1...8 DEPTH (DPTH1...8)	[0...99]
SRC1~8でLFO、ENVを選択したときは、コントロールの深さを調整します。	
EXP1...8 RANGE (RANGE1...8)	[TG1...8の設定による]
SRC1~8でCR1~8を選択したときは、コントローラが最大値(最小値)のときのパラメータの値を設定します。	
EXP1...8 POLARTY (POLARITY1...8)	[+, -]
SRC1~8でCR1~8を選択したときは、コントローラの動作方向を設定します。	
WARP! RESLT (WARP)	[0...20]
[WARP!]ノブの感度を設定します。	
RENAME (RENAME)	
プログラムネームを設定します。 [FUNCTION]ノブで文字の位置を指定し、[VALUE]ノブで文字を選択します。	

UTILITYモード

CNTRL DEVICE (CNTRL DEVICE)	
各コントロール・デバイスを、コントローラ1~8に割り当てます。	
CONTROLLER1...8 (CR1...8)	[WARP!, PEDAL, CC0...120, A.TOUCH, P.BEND, VELOCITY, NOTE_NUM]
[WARP!]ノブや、コントロール端子に接続したフットペダル、MIDIコントロールチェンジなどのコントロール・デバイスを、コントローラとして割り当てます。	
CONTROL INIT (CTL INIT)	[ENA, DIS]
ENA (Enable)にすると、プログラムの変更時にコントローラを初期化します。	
MIDI (MIDI)	
MIDIに関する設定を行います。	
MIDI CHANNEL (MIDI CH)	[1...16]
MIDIチャンネルの設定を行います。	
PROG CHANGE (PROG CHG)	[ENA, DIS]
MIDIプログラムチェンジを送受信するときはENA(Enable)を選択します。	
CTRL CHANGE (CTRL CHG)	[ENA, DIS]
MIDIコントロールチェンジを送受信するときはENA(Enable)を選択します。	
EXCLUSIVE (EXCLUSIV)	[ENA, DIS]
MIDIエクスクルーシブデータを送受信するときはENA(Enable)を選択します。	
DUMP CURRENT (CURNT [DUMP])	
このパラメータを選択して[VALUE]ノブを押すと、現在のプログラムがエクスクルーシブ・データとして送信されます(上記のEXCLUSIVの設定に関係なくデータは送信)。	
DUMP ALL (ALL [DUMP])	
このパラメータを選択して[VALUE]ノブを押すと、全てのプログラムがエクスクルーシブ・データとして送信されます(上記のEXCLUSIVの設定に関係なくデータは送信)。	
ms/♪ (ms/♪)	[CC0...120]
HOLD (HOLD)	[CC0...120]
BYPASS (BYPASS)	[CC0...120]
フロントパネルの[ms/♪]キー、[HOLD]キー、[BYPASS]キーに、MIDIコントロールチェンジ・ナンバーを割り当てます。 ここで割り当てたMIDIコントロールチェンジ・ナンバーを受信すると、上記のキーを押したときと同じ様に動作します。 上記のキーを押すと、ここで設定したMIDIコントロールチェンジ・ナンバーを送信します。	

TRIG (TRIG) [CC0...120]
 フロントパネルの[TRIGGER]キーに、MIDIコントロールチェンジ・ナンバーを割り当てます。
 ここで割り当てたMIDIコントロールチェンジ・ナンバーを受信すると、オーディオトリガー・ディレイが動作します。
 [TRIGGER]キーを1秒以上押し続けると、オーディオトリガーのタイミングで、設定したMIDIコントロールチェンジ・ナンバーを送信します。

TAP (TAP) [CC0...120]
 フロントパネルの[TRIGGER]キーに、MIDIコントロールチェンジ・ナンバーを割り当てます。
 ここで割り当てたMIDIコントロールチェンジ・ナンバーを受信すると、タップテンポ・ディレイが動作します。
 [TRIGGER]キーを短く押すと、設定したMIDIコントロールチェンジ・ナンバーを送信します。

PROGRAM (PROGRAM)

プログラムの選択に関する設定を行います。

PROGCHG MODE (PC MODE) [DIR, 2STP]
 プログラムの選択方法を設定します。
 DIRにすると、[VALUE]ノブを回してプログラムを選択した時点でプログラムが決定されます。
 2STPにすると、[VALUE]ノブを回してプログラムを選択し、[VALUE]ノブを押してプログラムを決定します。このとき、プログラムが決定されるまではプログラムナンバーが点滅し、[VALUE]ノブを押して、はじめてプログラムが変更されます。

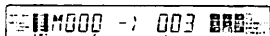
SEAMLESS (SEAMLESS) [OFF, ON]
 ONにすると、プログラム変更前のディレイ音を残します。
 プログラム変更前に入力された音には、変更前のディレイが残り、変更後は新しいプログラムのディレイがかかります。
 OFFにすると、プログラムを変更するとき、すべての音を一瞬消し変更前の音を残しません。

WAKE UP PROG (WAKE UP) [0...127]
 電源ON時には、ここで選択したナンバーのプログラムが呼び出されます。

MAP (MAP)

[OFF, ON]

本機のプログラム・ナンバーとMIDIプログラム・ナンバーの対応を設定します。
 ONにすると、設定したプログラム・マップが使用されます。
 プログラム・マップを設定するときは、最初に[FUNCTION]ノブを押します(ディスプレイは下のような表示に変化)。



受信するMIDIプログラム・ナンバー
 割り当てるプログラム・ナンバー

そして、[FUNCTION]ノブを回してMIDIプログラムチェンジ・ナンバーを選択し、[VALUE]ノブを回して割り当てるプログラムナンバーを設定します。
 最後に、[FUNCTION]ノブを押して設定を終了します。

OFFにすると、MIDIプログラムチェンジ・ナンバー1にはプログラム1というように、MIDIプログラムチェンジ・ナンバーがそのままプログラムに割り当てられます。

AUDIO CNTRL (AUDIO CNTRL)

オーディオ信号によるコントローラーの設定を行います。

ENVELOP SENS (ENV SENS) [0...30]
 エンベロープ・コントローラーの感度を設定します。

ENVLP RELEAS (ENV RLS) [0...30]
 エンベロープ・コントローラーの減衰時間を設定します。

TRIGGER THR (TRIG THR) [-36...0dB]
 オーディオトリガーのスレッシュホールドを設定します。

DISPLAY (DISPLAY)

ディスプレイに関する設定を行います。

DISPLAY MODE (DSP MODE) [NAME, NUM, TIME, MAP]
 プログラムモードでディスプレイに表示される項目を設定します。

NAMEにすると、現在選択しているプログラム名が表示されます。

NUMにすると、現在選択しているプログラム番号とプログラム名の一部が表示されます。

TIMEにすると、タイム・モード時はLFBTIMEとRFBTIMEの値が表示され、テンポ・モード時はテンポが表示されます。

MAPにすると、MIDIから受信したプログラムチェンジ・ナンバーと、それに対応したプログラム・ナンバーが表示されます。

ABBREV TIME (ABRV TIME) [0...8]

ABRV MODEが1のときは、パラメータ名がフルネームで表示されてから短縮形になるまでの時間を設定します。

0にすると省略形で表示されます。1以降はパラメータ名が一度表示されてから省略形に変化します。数値が大きくなるほど変化する時間が長くなります。

ABRV MODEが2のときは、スクロールする速さを設定します。数値が大きくなるほどスクロールが遅くなります。

ABBREV MODE (ABRV MODE) [1, 2]

パラメータ名の表示方法を設定します。

1にすると、パラメータ名は省略形で表示されます。

2にすると、パラメータ名はスクロールで表示されます。

DIMMER (DIMMER) [1...8]

ディスプレイの明るさを調節します。

FOOT PEDAL (FOOT PEDAL)

リアパネルの各端子に接続するフットペダルのタイプを設定します。

BYPASS PEDAL (BYPASS) [L, H, U, D, U/D]

TRIGGR PEDAL (TRIG) [U, D]

HOLD PEDAL (HOLD) [L, H, U, D, U/D]

各端子に接続するフットペダルのタイプを設定します。

Lにすると、フットスイッチがクローズ(接点が接触している)の間は動作をします。

Hにすると、フットスイッチがオープン(接点が離れている)の間は動作をします。

Uにすると、フットスイッチがクローズからオープンになる瞬間に動作をします。

Dにすると、フットスイッチがオープンからクローズになる瞬間に動作をします。

U/Dにするとフットスイッチの状態が切り替わるたびに動作をします。

MEMORY (MOEMORY)

プログラムメモリーに関する設定を行います。

WRITE PROTCT (W-PROTCT) [OFF, ON]

ONにすると、プログラムの書き換えを禁止します。

PRESET (PRESET[LOAD])

工場出荷時のプログラムをロード(読み込み)します。



ロードすると、工場出荷時のプログラムが本体のプログラムの上に書き込まれるので、ライトの操作で本体に保存したデータを失うことになります。大切なデータは、データファイラー等へあらかじめ保存しておいてください。

[VALUE]ノブを押すと、プログラムがロードされます。

MIX OFFSET (MIX OFFSET)

全プログラムのダイレクト/エフェクト・レベルを、一度に調整する機能です。

DIRECT OFFST (DIR OFS) [-INF...0dB]

全プログラムのダイレクト音の音量を調整します。

DELAY OFFSET (DLY OFS) [-INF...0dB]

全プログラムのディレイ音の音量を調整します。

EDIT L/R SNC (L/R SYNC) [OFF, ON]

ONにすると、左右どちらかのパラメータを設定したときに、もう一方の対応するパラメータも同じ値に設定できます。

メッセージについて**COMPLETED**

操作が完了した。

LOADING...

工場出荷時のプログラムをロード中です。

PROTECTED

WRITE PROTCTがONになっているのでライトできません。UTILITYモードでMEMORYパラメータのWRITE PROTCTをOFFにしてからライトしてください。

READ ONLY

ROMエリアへライトしようとした(ROMエリアへはライトできません)。0~127のユーザー・エリアへライトしてください。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら、まず次の事項を確認してください。症状が改善されない場合には、お近くの販売店またはコルグ インフォメーションまでお問い合わせください。

電源が入らない

付属のAC/ACパワーサプライは正しく接続されていますか?

⇒ 接続を確認してください。

音が出ない(小さい)

音源、パワー・モニター等の電源はONになっていますか?

音源、パワー・モニター等は正しく接続されていますか?

⇒ 各機器の設定、接続を確認してください。

接続コードは断線していませんか?

⇒ 接続コードを確認してください。

音源のアウトプット・レベルや[OUTPUT]ノブ、[INPUT]ノブは0になっていませんか?

⇒ 音源のアウトプット・レベルや[OUTPUT]ノブ、[INPUT]ノブの設定で、出力される音量を調整してください。

MIXERパラメータのレベルの設定が-INFになっていませんか?

⇒ PROGRAM EDITモードのMIXERのサブ・パラメータで各レベルを調整してください。

OUTPUT端子のLまたはRの片方だけに接続していませんか?

⇒ PROGRAM EDITモードのMIXERのサブ・パラメータで出力バランスを調整するか、ステレオ・アウトにしてください。

接続したフットペダルが使えない

接続したフットペダルとFOOT PEDALパラメータの設定は合っていますか?

⇒ 接続したフットペダルに合わせて、UTILITYモードのFOOT PEDALのサブ・パラメータを設定してください。

接続コードは断線していませんか?

⇒ フットペダルの接続コードを確認してください。

エフェクトがかからない

バイパスは解除されていますか?

⇒ [BYPASS]キーまたはBYPASS端子に接続したペダルスイッチで、バイパスを解除してください。

[WARP!]ノブやCTRL端子に接続したペダルスイッチを操作しても、設定した効果が得られない。

UTILITYモードで[WARP!]ノブやCTRL端子に接続したペダルスイッチでコントロールするようにデバイスが設定され、PROGRAM EDITモードでコントロールされるパラメータが正しく選択されていますか?

⇒ 各モードの設定を確認してください。[WARP!]ノブによるコントロール)(P9)を参照してください。

LFOやエンベロープによるコントロールで、設定した効果が得られない。

コントロールされるパラメータの設定は最大値または最小値になっていませんか?

⇒ 最大値または最小値を超える効果は得られないので、値を調整してください。

タップテンポ・ディレイで、思っているようなディレイタイムが設定できない。

ノート・レゾリューションは正しく設定されていますか?

⇒ PROGRAM EDITモードのRESLT TAPやFACTOR(NOTE RESLTのサブ・パラメータ)を調整してください。

タイム・モード、テンポ・モードはどちらが選択されていますか?

⇒ タイム・モード、テンポ・モードは選択されているモードによってタップテンポ・ディレイの動作が異なります。[タイム・モードとテンポ・モード](P11)を参照してください。

オーディオ・トリガー・ディレイで、思っているようなディレイタイムが設定できない。

ノートレゾリューションは正しく設定されていますか？
⇒ PROGRAM EDITモードのRESLT AUDIOやFACTOR (NOTE RESLTのサブ・パラメータ)を調整してください。

スレッシュホールドは正しく設定されていますか？
⇒ PROGRAM EDITモードのTRIGGER THR (AUDIO CNTRLのサブ・パラメータ)を調整してください。

プログラムの保存ができない

プロテクトがかかっていますか？
⇒ UTILITYモードのWRITE PROTCT (MEMORYのサブ・パラメータ)をOFFにしてください。

プログラムのROMエリア(128~255)にライトしようとしていませんか？

⇒ ユーザー・エリア(0~127)にライトしてください。

仕様

- コントローラ: [INPUT]ノブ(L, R)、[OUTPUT]ノブ(L, R)、[FUNCTION]ノブ、[VALUE]ノブ、[WARP!]ノブ、[ms/♪]キー、[HOLD]キー、[TRIGGER]キー、[BYPASS]キー、電源スイッチ
- 入出力: INPUT端子(L/MONO, R) (標準)、OUTPUT端子(L, R) (標準)、BYPASS端子(標準)、HOLD端子(標準)、TRIGGER端子(標準)、CTRL端子(標準)、AC9V IN(標準 DIN-4pinコネクタ)、MIDI端子(IN, OUT, THRU)
- ディスプレイ: 12ケタ ALPHA-NUMERIC
- プリセット・プログラム: 256(ユーザー・エリア: 128、ROMエリア: 128)
- 最大プリディレイタイム: 400ms
最大ディレイタイム: 4,800ms
ディレイライン直列接続時: 10,000ms
(400ms+4,800ms+4,800ms)
- 最大入力レベル: +20.0dBu
- 入力感度: -10dBu~+8.0dBu (ヘッドルーム12dB時)
- 入力インピーダンス: 500kΩ
- 最大出力レベル: +20.0dBu
- 出力負荷インピーダンス: 600Ω以上
- 周波数特性: 20Hz~20kHz (±1.0dB)
- ダイナミックレンジ: 96dB (@1kHz AWTD 22kHz-LPF)
- T.H.D.+ N: 0.03% (@ 1kHz F.S. 22kHz-LPF)
- A/D、D/A分解能: 18bit リニア
サンプルレート: 48kHz(128倍オーバーサンプリングビットストリームADC、DAC)
- 外形寸法(W x D x H): 482 x 216 x 44(mm)
- 重量: 2.4kg
- 電源: AC 9V (KORG KA141)
消費電流: 2,000mA(最大)
- 動作温度: 0~40℃(ただし結露なきこと)
- 付属品: 取扱説明書、ゴム足、AC/ACパワーサプライ
(F.S.=デジタルフルスケールレベル)
(0dBu=0.775Vrms)

外形および仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

[デジタル・マルチタップ・ディレイ] 1997.06.19
DL8000R MIDIインプリメンテーション・チャート

ファンクション・・・	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル: 電源ON時 設定可能	1~16 1~16	1~16 1~16	記憶される
モード 電源ON時 メッセージ 代用	X *****	X X X	
ノート・ ナンバー: 音域	X *****	○0~127 X	コントロール・ソースとして受信 *C
ベロシティ: ノート・オン ノート・オフ	X X	○9n, V=1~127 X	コントロール・ソースとして受信 *C
アフタータッチ: キー別 チャンネル別	X X	X ○	コントロール・ソースとして受信 *C
ピッチ・ベンダー	X	○	コントロール・ソースとして受信 *C
0, 32	○	○	バンク・セレクト(MSB, LSB) *P

MIDI IMPLEMENTATIONの配布については、コルダ インフォメーションへお問い合わせください。

コントロール チェンジ:	0~120	○	○	○	コントロール・ソースとして受信 *1*C
	121	X	○	○	リセット・オールコントロール
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	○ 0~127 *****	○ 0~127 0~127	○ 0~127 0~127	*P
エクスクルーシブ		○	○	○	*E
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	X X X	X X X	X X X	
リアルタイム:	クロック コマンド	○ X	○ X	○ X	*2
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	X X X X	X X X X	X X X X	
備考					
*C, *P, *E: MIDI Filter (Control Change, Program Change, System Exclusive)がENAのとき送受信する。					
*1: スイッチにコントロール・チェンジがアサインされているとき送受信する。					
*2: MIDI Clock ResolutionがOFF以外に設定されているとき送受信する。					

○: あり
X: なし

モード1: オムニ・オン, ポリ
モード3: オムニ・オフ, ポリ
モード2: オムニ・オン, モノ
モード4: オムニ・オフ, モノ

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

- ・消耗部品(電池など)を交換する場合。
- ・輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
- ・天災(火災等)によって生じた故障。
- ・故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
- ・コルグ・サービスステーション及びコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
- ・保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
- ・保証期間が切れている場合。
- ・日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3カ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと、修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任をもってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年を基準に保有しております。ただし外装部品(パネル、スイッチなど)の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12	☎(03) 5376-5022
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17	☎(03) 3323-5241
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51	☎(052) 832-1419
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F	☎(06) 374-0691
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F	☎(092) 531-0166

■修理等については、最寄りの各営業所または下記までお問い合わせください。
 営業技術課 〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03) 3309-7004

< WARNING! >

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

(この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。)